

無償資金協力「日本方式」の普及の評価

<概要>

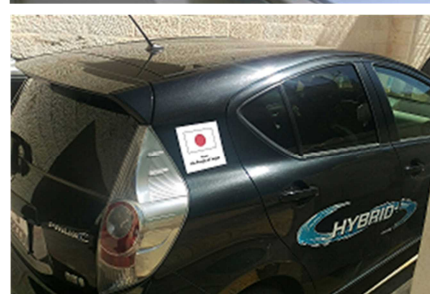
評価者(評価チーム):

- ・評価主任 佐藤寛 アジア経済研究所
新領域研究センター 上席主任調査研究員
- ・アドバイザー 伊達卓二 保健医療経営大学
保健医療経営学部 教授
- ・コンサルタント みずほ情報総研株式会社

評価実施期間: 2016年8月～2017年2月

現地調査国: ヨルダン, スリランカ

- 写真右上:スリランカの病院に供与されたCTスキャナ
- 写真右下:ヨルダン環境省に供与されたハイブリッド車



評価の背景・目的・対象

日本は、平成24年度以降、無償資金協力「日本方式」の普及の枠組みにより、日本で生産される機材・製品等の新興国・途上国への供与を通じ、途上国の経済社会開発を支援するのみならず、同機材・製品等に対する認知度の向上を図り、継続的な需要を創出し、日本企業の海外展開を支援すること等を目的とする、「日本方式」の普及のための案件を実施している。本評価ではこのスキームに基づく取組について総合的な評価を行った。

評価結果のまとめ(総括)

●開発の視点

(1)政策の妥当性

日本方式普及無償は、国際的な援助アンタイド化の潮流とは整合していないが、日本の上位政策とは概ね整合し、また供与製品分野の選択は国際的・国内的な重点分野に沿い、被援助国の開発政策とも整合的であった。以上から「政策の妥当性」の総合評価は、「非常に高い」とまでは言えないものの「高い」(high)と言える。

(2)結果の有効性

供与した機材の稼働状況は良く、メンテナンス体制も問題ないことは評価できる。相手国への貢献という点では、優先政策に合致する分野での機材供与であり、直接的な機材稼働による効果があり、政策実現に向けた効果も推察された。日本経済の活性化という面では、受注した企業の売り上げには貢献していたものの、市場開拓効果や最終的な「日本方式」の普及という目的に向けて、効果的な取組が見られないという課題があった。以上から、「結果の有効性」の総合評価は「ある程度高い」(moderate)と評価した。

(3) プロセスの適切性

案件を実施する上では、外務省、調達代理機関、相手国政府で適切な協議が行われていることが現地調査からうかがえた点は評価できるが、スキーム創設時の分野設定や既存スキームとの効果的な連携の模索などの検討が不十分であった点や、医療機材や防災機材については、具体的な製品やメーカー単位での海外展開の展望を協議して創設されたものではないこと、案件実施において現場レベルで予見性がなく、効果的な案件組成が難しいことなどの課題が指摘できる。以上から、「プロセスの適切性」については、「高いとは言えない」(marginal)と評価するのが妥当と考えられる。

●外交の視点

日本製品という目に見える形で供与されることや、交換公文(E/N)の署名までが迅速に行われるといった要因もあり、要人往来等の外交行事と結びつけて実施できる可能性があるといった外交的効果が確認できた。また、外交ツールの多様化といった効果も確認できた。二国間関係への影響としては、政府レベルや受益者レベルで日本製品への親近感の向上といった効果が確認できた。

提言

(1) PDCA サイクル確立のためのスキーム・案件の目標の明確化

インプット目標について、地域別や分野別にニーズ整理等を行うことにより、計画の具体化に努めるとともに、アウトプット・アウトカム目標の明示、効果的かつ現実的なモニタリングの制度的実施を検討するべきである。

(2) 案件形成の予見性の向上と現場レベルの権限強化

本スキーム実施を念頭に置いた国別の調査や、候補案件リスト等の作成を事前に行うことを通じて、重点対象国を選定することや、現場レベルでの事前の案件形成に向けた調整や、他の取組との効果的な連携ができる体制を整えるべきである。

(3) 医療・防災機材の優先対象機材の選定

自動車分野については業界団体とも調整し、環境面での優位性がある分野に特化しているのに対し、医療機材・防災機材はそのようになっていない点を改善するために、日本の強みをアピールできる機材群を設定していくことが必要である。

(4) 国際的な目標への位置づけの明確化

日本方式普及無償は、ODA をより日本の経済的な国益のために戦略的に用いていくということが意図されており、日本の産業振興の側面が他のスキームに比べても強いスキームとなっている。一方でODA の本来的な役割としては、国際的な課題や途上国の経済社会の発展を目指すことであり、その点から批判されかねないという懸念がある。この点を改善していくため、日本の経験や技術を用いて、環境・エネルギー、医療、防災といった国際的な課題解決に貢献するスキームとして本スキームを再定義していくことを提案する。